

## Web 改ざん検知

Web ページの改ざんを正規の更新と的確に見分ける Web 改ざん検知技術を開発し、製品化した。

Web サイトへの不正アクセスにより Web ページの内容が不正に書き換えられる Web サイトの改ざん被害が広がる中、それまであった Web ページの変更検知システムでは正規の「更新」と不正な「改ざん」の区別ができず、的確なアラートを出すことができなかった。この課題に対して、神戸大学 森井 昌克教授との共同研究により、改ざんパターンをデータベース化し、Web ページの内容がアクセスの都度変化する動的ページであっても「更新」と「改ざん」を的確に見分けることのできる高度な改ざん判定アルゴリズムを開発した。製品化に際しては、監視対象の Web サーバの変更を必要としない簡単な監視設定により、Web サーバへの負荷を抑えながら定期的にリモート監視を行い、不正な改ざんの検知に加えて、Web アクセス時のエラーやレスポンスの低下に基づいた障害検知も可能とした。

2001 年～2002 年にトライアルサービスを実施後、アルゴリズムの高度化や製品化の取り組みを進め、2007 年に株式会社ネットワークから「WebS@T」として販売が開始された。同年に開催された INTEROP TOKYO 2007 では「WebS@T」が「Best of Show Award～情報セキュリティ製品部門～」でグランプリを受賞した。